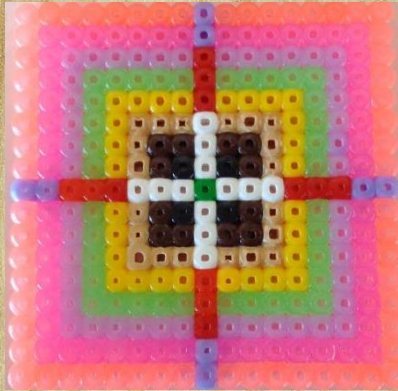


D-Stylebook



すばらし人生の始まり…

大切な人の育ち



生まれた命が、輝きはじめた…

あなたがいるだけですばらしい

あふれ落ちるほどの無限の可能性を秘めた人であるように。

体いっぱい感じたすべてが豊かな感性となるように。

ここにある確かなモノ…たいせつなひとりひとりの育ち

<保育理念>

『子どもの最善の利益を尊重します。』

～すべては子どもの幸せのために～

大徳学園にいるすべての人が人として慈しまれて育つことを願っています。

お子さんにどんな人に育ってほしいですか

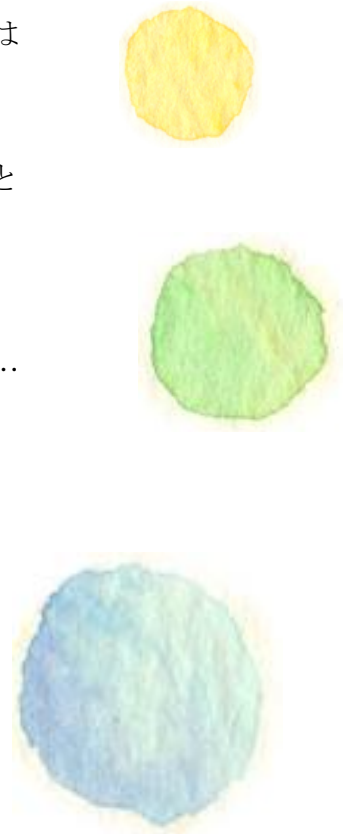
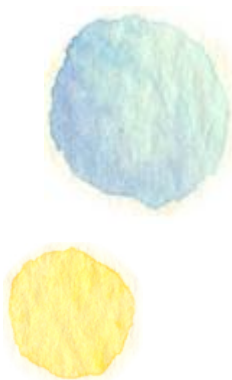
子どもはお母さんのお腹から生まれ落ちた瞬間、
『人』として愛され、生きていきます。

人として生まれてきたことに、子どもが喜びを感じる瞬間は
どんな時でしょうか…。
跳び箱が誰よりも高く跳べるとか、誰よりも早く読み書き
計算ができるようになるとか、誰よりも早く上手にできたこと
を褒められて評価される瞬間でしょうか？

自分が生きていることそのものに感謝された時
自分の存在そのものを喜んでくれ、温かく受け入れられた時…
そんな瞬間、人として生まれてきたことに喜びや
生きがいを感じると思います。

ゆっくりゆっくり自分と真剣に向き合って
丁寧に愛情をかけられ大切に育てられた子ども、
毎日を人と共に楽しく歩んできた子どもは、
将来人として自分の力を大いに活かし幸せな人生を
歩んでいくことができるでしょう。

大徳学園…
ここにはお子さんが人として幸せに育つための『人との関わり』、
そして『豊かなあそびを通した教育』があります。





『乳児の部屋』

『環境』

『環境』はとても大切。
なぜなら、子どもたちが毎日、生活したり
遊んだりする大切な場所だからです。

園内にはキャラクターやきらびやかな装飾はなく、
季節の草花や子どもの作品がさりげなく飾られています。

お天気の良い日はこうこうとした電気は消し、
自然のあたたかなおひさまの光のもとで生活します。
お母さんのお腹の中にいた時の光に一番近い明るさ。

部屋の入口にクラス名の書かれた表札もなければ、
音楽がにぎやかに流れ続けることもありません。
子どもたちの制服も、名札ももちろんありません。
大人の制服も、名札もありません。

できるだけお家に近い環境で過ごしたいから…。
それが子どもの『安心』と『過ごしやすさ』に
つながります。





『子ども主体』

大人が「今から～しますよ。」「～しなさい。」と指示するのではなく、子ども自身が「これおもしろそう!」「やってみたい!」と思うきっかけを大人が用意し、子どもの心が動く瞬間を1つひとつ大切に育んでいきます。

子どもの興味・意欲を育むために最も大切なのは『あそび』。ここには子どもが自分で考え、楽しめる豊かなあそびがたくさんあります。今、自分がやってみたいと思うことにすぐにチャレンジできる。もっとやってみたいと思うあそびを続けて楽しめる…。

あそびが主体の教育だから、子どもの『主体性』を育むことができるのです。そうすることで、自尊心や自立心、自信につながり、自分の進みたい道を自分の力で考え、選択し、問題を解決しながら将来、自分の思い描く人生を歩んでいける人になると思います。

『人』対『人』



大人は子どもの上に立つ『先生』ではなく、喜びを共感し合う『仲間』であり、どんなことがあっても子どもたちの『味方』です。

子どもの力を信じ、1人ひとりを『人』として尊重し、『人』対『人』の関係を大切に育んでいきます。

決して子ども扱いせず、目と目をしっかり合わせ、1人の人として話をしたり、話にじっくり耳を傾けたり、心を寄せあったりします。



乳児の生活『0歳児』

毎日同じだから分かってくる…。

『安心』がここにはあります。

大好きな家族から離れて初めての園生活。

1日の大半を過ごす場所だからこそ、安心して気持ちよく過ごせる場所であることが大切。家庭と同じように、自分の食事をする場所やベッドの場所、オムツ交換をする場所やおもちゃの場所が毎日同じ。1日の生活の流れも毎日同じ。毎日同じだから、これから行われる少し先のことが分かるようになり、順番を守り自分で行動できるようになります。同じ人が傍にいてくれる毎日が安心感や落ち着いた雰囲気をもたらし、基本的な生活習慣の自立へとつながります。



決まった人と

子どもが一番心を寄せ、信頼しているのは家族です。園でも乳児の頃は信頼できる大人との1対1の関係をまず大切に築いていきます。

いつも同じ人が食事や排泄の援助をすることで、子どもは安心して自分の思いを表現し、大人は小さな変化や成長発達に気づきます。

成長発達や生活リズムは一人ひとり違うので個々に合わせた保育カリキュラムを用意しています。

乳児のあそび『0歳児』



信頼できる人がそばにいるからその人の真似をする。

とことん向き合う

0歳のどんなに小さな赤ちゃんでも、私たちは1人の『人』として向き合います。

「〇〇してもいい？」と1人ひとりに言葉をかけ、子ども自身の気持ちが動くのを待ちます。子どもは目や表情、動作などで「いいよ。」と答え、私たちは「ありがとう。」と返します。このやりとりの繰り返しが信頼感や自己肯定感を育てていきます。人と関わることの喜びを感じられるよう、目と目を合わせ、わらべうたあそびをしたり、絵本を読み聞かせたり、心をこめて歌を唄ったり…。愛情を持った語りかけやふれあいを大切にしていきます。

真似上手は遊び上手。

あそびが豊かな人を育てる

人は『やってみたい』『楽しい』と感じたときに一番、力を発揮し成長すると言われています。

ここには「やってみたい!」、「楽しい!」と感じられるあそびがたくさんあります。握る、つまむ、押す、引く、積む、回す…。体を大きく使う粗大あそびから指先を使う操作練習あそびまで、1人ひとりの成長発達に合った遊具やおもちゃを用意しています。「やってみたい!」と思ったときにすぐに手に取れるよう手の届くところにたくさんあそびを用意し、子どもの興味・関心・意欲の芽を育てていきます。

乳児の生活『1歳児』



「自分で…」

自分でできることが少しずつ増え、まぶしいくらいに自信に満ち溢れています。出来ないことはないと思っていて、好奇心でいっぱいです。

すべては自分のためにあるもの

まだまだうまくはできないけれど、何でも自分でしてみたい年頃。大人は子どもの思いにとことん向き合っ
て応え、自分で出来たという達成感につながるよう支え、励まし、見守ります。

そうした成功体験の積み重ねが自信につながります。自分がしたいことを実現できる。自分のすることが守られている。自分が愛されている。そういった体験が自己肯定感を育むことにつながります。



社会性の広がり

自分だけの世界から視野が広がり、自分とは違う友だちのことも気になりだします。

自分のしてみたいことはもちろん、友だちのしていることもしてみたいという欲張りさんになっていきます。友だちと同じことで笑いあうことが楽しく感じ始めます。



乳児のあそび『1歳児』

毎日が探究心の連続…。子どもはあそびの研究者。

おもちゃを引っ張り出す。穴に入れる。高いところに登る。

子どもは、毎日が探究心の連続…毎日が探検家です。体のあらゆるところを使って自分の出来ること探しをしています。

体験は学び

1人で歩き始め、自分の思ったように自分の体も手も自由に動かすことが出来るようになります。

鳥の声をきいたり、綺麗なものを見たり、触ってみたいものや匂いを嗅いでみたいもの、味見してみたいものを見つけたりと、自分の体で感じるすべてのことがスポンジのように染み渡り子どもを内面から豊かにさせてくれます。

それがいかに大切なのか…子どもは毎日たくさんの経験を積んで大きくなっています。今最大限で出来ることを試し、1歩上を目指してチャレンジしています。



乳児の生活『2歳児』



自分が一番！自信とプライドの高い2歳児。

この時期になると、自分で自分の体の動きをコントロールできるようになり、歩くことや走ること、跳ぶことが思った通りにできるようになります。また、指先が器用になるにつれて、洋服の脱ぎ着や、トイレでの排泄など、自分でできることが増えてきます。

子どもの話を聞く

「やってみたい。」「自分でやる！」という好奇心や意欲、また、「自分でできる！」という自信にあふれています。

その反面、まだすべてが上手にできる訳ではないので、出来ないことに苛立ち、腹を立てたり、かんしゃくを起こし「イヤ!」「ダメ!」と反発したりすることも増えます。こんな時、大人は上手い出来ない苛立ちを受け止めながら、「どうしたかったの?」「どうする?」「こんな方法もあるよ。」など、子ども自身が納得いくように子どもの思いを聴きながら見守ったり、さりげなく手助けをしたりします。そうすることで子どもの主体性と自立心が育まれます。

生活面の自立は3歳までに

友だちへの興味や関心が高まり、共に生活することに喜びを感じるようになってきます。そのため、少しずつ集団での生活に変わっていきます。

ただ0・1歳児同様、援助する人、援助の手順、食事の場所や寝る場所、時間は毎日同じなので、生活リズムは安定しています。そのため、子ども自身が自ら考え行動し、自立へとつながっていきます。



乳児のあそび『2歳児』



とにかく遊ぶ！

2歳児は4～6人くらいの小さな集団で一緒に遊ぶことを楽しめる時期です。

簡単なカードゲームをしたり、一緒に積木を積んだり、お店屋さんごっこや鬼ごっこ、かくれんぼをしたり…。どれも自分で考え、友だちと関わりながら想像をふくらませ楽しむものばかり。電池で動くものや光が出るもの、DVDなど子どもが受け身になるようなおもちゃやあそびはありません。子どもと大人、子ども同士、とことん向き合っあそびます。

『お片付け』のない保育

指先が発達し器用になるため、部屋に用意するおもちゃは、ビーズやおはじきなど細かいものを増やしています。遊んだ後、「片付けはどうしているの?」「散らかって大変じゃない?」とよく聞かれます。

ここには『お片付けの時間』はありません。1つのあそびが終わったら元の場所に戻したり飾ったりします。

『使ったら元に戻す』、『遊び終わったら元の場所に戻す』が日常。そこから『遊びやすい環境を自ら作る力』、『友だちと気持ちよく生活する思いやり』が育まれます。



「今これがしたい！」を実現させる

「今これがしたい！」を実現できるように同じおもちゃを複数用意し、子ども自身があそびを選択できるようになっています。

といっても、子ども全員分の道具やおもちゃを用意したのでは物の貸し借りをするなどのやりとり、人間関係は育まれません。子どもたちが自分の好きなあそびを選び、主体的に遊ぶ日常からやる気や集中力が育まれます。



幼児の生活『345 歳児』

3・4・5 歳児が集まれば互いにより育ちあう…

幼児期の3年間はクラス替えがありません。
変わらない友だちとの生活で、互いに高め合い、共に育ちあいます。
だから子どもたちはみんなやさしくて仲良しです。

成長発達の違いが絆を深める

自分で出来ることが増える一方、まだ所どころ手助けが必要な3歳児。自分のペースでゆっくりこなす4歳児。生活面のほとんどを自分で高度にこなせる5歳児。

成長発達が違う3・4・5歳児が1つの部屋に集まれば自然に子ども同士が助け合い、学び合い、喜びを共感し合い、より絆も深まっていきます。

自分の身の回りにある社会や友だちに興味や関心が高まる幼児期だからこそ、大人が中心になるのではなく、子どもたち同士で育ちあう環境を作ります。

個別対応から集団生活へ

食事はクラス全員ではなく、食事の準備ができたテーブルごとに決まった仲間と食べ始めます。トイレは生活リズムではなく、活動に合わせて行くように。

集団生活。それは自分の好き勝手にできることが少なくなること。

クラスみんなが協力し合い、気持ちよく生活できる方法を考え、話し合ったり、あそびのルールを確認し合ったりする時間を大切にしています。その活動はきっと『誰かへのやさしさ』に繋がっていきます。

幼児のあそび『3 4 5歳児』



積木あそび

子どもたちは世の中の様々なものに興味を持ち、それを積木あそびで再現します。仲間と共に『想像力』を生かし、作り上げた世界。その中でごっこあそびを楽しみ、空想の世界で役になりきったり、仲間と一緒に楽しんだりします。

また、同じ形の積木を繰り返し等間隔で積むことで『秩序感覚』や『美的感覚』が養われます。高く積んだり、大きくなるように積んだり、難しい形に積んだりすることが出来た時には『達成感』を得る経験も出来ます。時には、日をまたいで続きを楽しむことも。そのためには積み上がったものを壊さないようにしなければなりません。ここには、大切に積んだ積木を「がしゃん！」と崩す子は1人もいません。



大きくなったら…

お花屋さん、消防士、看護師さん…子どもたちは「大きくなったらこんな仕事をしたい！」という夢と希望であふれています。日常の経験や子どもたちの想像力を生かし、部屋でお仕事あそびを楽しみます。職業に興味や関心が高まったり、社会の仕組みやルールを知ったり、人とやりとりすることの楽しさを経験したりします。そこから子どもたちの夢が膨らみます。

表現・工作・絵画

ごっこあそびの道具や看板等、作りたい物を自分の手で作ります。

その他にも身近な自然物や絵の具やクレヨン、粘土、ビーズやカラーマグネットなど様々な素材を使って表現することを楽しみます。鮮やかな色の組み合わせ、綺麗な模様や形など、作る課程で様々な『美しさ』に子どもたちは出会います。子どもの『表現力』、『感性』が磨かれていきます。



園庭

自分の力を試す

子ども自身が自分の力を試し、自分の力で挑戦できるあそびの環境づくりに配慮しています。走る、登る、ぶら下がる、滑る、駆け下りる、とび降りる、転ぶ、ぶつかる、落ちる…。

運動は成長とともに動きが大きく複雑になって、室内より『動』のあそびが多い園庭では危険がいっぱい。しかし、怪我をしないような単調な動きのあそびでは子どもの可能性は広がらず、『危ない』を知らずに子どもは育ってしまいます。怪我はしたくないけど、大きな怪我をしないように遊べるようになることが大切です。





自然との出会い…

園庭や園周辺には、子どもの心を動かす自然がたくさんあります。
土や砂、泥や水の感触を楽しみながら遊ぶ子。
綺麗な草花や実を見つけ、大切に摘んだりもいったりして
目を輝かせている子。
面白い形の石ころや砂利をポケットいっぱいにして
心を弾ませている子。
草の中や土の中に隠れている虫を見つけて
大興奮している子。

興味をもつこと発見すること感動することは人それぞれ。
大切なのは子どもが自然のおもしろさ、不思議さ、美しさに
心を動かしている瞬間に、そばにいる大人や仲間がそれに気づき、
どのように共感し合えるか…

あそびは学び。
どの子も夢中になって真剣に遊んでいた子どもたち。
この姿はきっと未来へと続くはず。
だから服や靴が汚れたこと、
たくさんの自然の宝物を持ち帰ってきたこと、
叱らないでくださいね。
必要なのは「いっぱい遊んだね！」の一言と笑顔だけ。



あそびマップ



HPは

こちら♪



〒920-0343 石川県金沢市畝田中1丁目97番地

※北鉄バス 畝田バス停より徒歩1分

TEL : 076-267-0961 FAX : 076-267-0971

<http://daitokugakuen.jp/> 施設見学、ご相談はお気軽にご連絡ください。

大徳学園